

## 1. 調査報告概要表

作成日 2007年8月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473800538
法人名	特定非営利活動法人 ピースウェーブ
事業所名	グループホーム 朝日のあたる家
所在地 (電話番号)	横浜市都筑区北山田2-8-14 (電話) 045-592-6315

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス 第三者評価事業部
所在地	横浜市港北区新吉田東5丁目76-35
訪問調査日	平成 19年 7月 27日

## 【情報提供票より】(19年 6月25日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	38人	常勤	7人, 非常勤 31人, 常勤換算 27人

## (2)建物概要

建物形態	○ 併設	新築
建物構造	別法人運営通所介護 併設型 木造 2階建ての1階~2階部分	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1267 円		

## (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	27名	男性	8名	女性	19名
要介護1	4名	要介護2	10名		
要介護3	8名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	75歳	最高	96歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 鳳和会、ワタナベ 歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>◇ホームは公園の近くの閑静な地にある。従来から地域に密着した運営を進めてきたことに特徴がある。近隣の小学生達が気軽に訪れては利用者と一緒に楽しい時間を過ごしているし、近くの農家が季節の新鮮な野菜を提供してくれることで利用者の食卓を楽しんでいる。</p> <p>◇利用者の役割意識と自立性への職員の配慮がある。食事の手伝い、花壇の水遣りなど能力に応じた役割がある。その役割意識が自立性の向上につながっている。寝たきりだった人がいきいきとキーボードを弾き、周りに人が集まってみんなで歌うまでになっている。</p> <p>◇チームケアに力を入れていることも特徴といえる。利用者ごとに担当の職員がいて、利用者の状態の変化が詳細にカンファレンスの場に報告され、医療連携を含めて課題ごとにチームとしての介護支援の内容が決定されている。</p> <p>◇毎月1回のホーム便りでは、利用者一人ひとりの生活状況や健康状態が家族に報告されている。ホームとしての利用者に対する優しい思いが家族に伝わる充実した内容である。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では改善課題の指摘は無かったが、ホームとしては地域密着型のホーム運営の強化のために、ホームの理念の見直しを行った。また利用者の外出の機会を増やすなどの改善を行なった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員がユニット毎に分かれて評価項目の自己評価を実施した。評価の結果をカンファレンスの場で職員間で検討し、ユニット長が全体をまとめる方式とした。自己評価には2か月を要したが、地域密着型としてのホーム運営と課題に対する、職員の意識の共有化を図ることができた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>6月1日にホームとしての運営推進会議設置内容が決定され、第一回目を8月開催の予定で準備が進んでいる。会議の委員として、利用者と家族の代表、地域住民の代表者としての自治会長、敬老会の代表者及び地区センター職員が決定し、オブザーバーとして地域ケアプラザの出席が予定されている。評価結果や課題に対するモニター役としての機能を運営推進会議に期待している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年に2回家族アンケートを行い、意見や要望を家族要望書にまとめている。家族と職員との認識の違いが無い様にするともに、課題についてはカンファレンスの場で職員に対応方法を指示している。利用者の日常生活の状態については、毎月1回のホーム便りに詳細に報告されている。内容は個人別に日常生活の状態、健康状態などに関するユニット長の意見が添えられ、家族の安心感につながっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域密着型としての役割を十分に意識したホーム運営である。盆踊りや餅つき大会などの地域の行事に積極的に参加している。クリスマス会などのホームの行事に地域の人たちが参加できるようにパンフレットを掲示している。ゴミの収集やリサイクルなどの地域活動にも積極的に参加している。地域の農家の協力で季節の新鮮な野菜を提供してもらうなど、地域住民との協力関係の強化が図られている。</p>

1

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「助け合い 支えあって はぐくもう 地域に根ざした あったか介護」がホームの理念である。理念は地域密着型のホームの役割を反映したものである。職員全員で意見を出し合い、従来の理念の見直しを行い、ホーム独自の理念とした。新しい理念によるホーム運営をH19.6.30より開始した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をタイムカードの横に掲示し、朝夕職員の目に触れるようにしている。またカンファレンスの場で職員に理念の意識付けが行なわれている。利用者に対する日々の「やさしさ」への取り組みが理念の具体化につながっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区センターでのコンサートや各種の行事に積極的に参加している。ホームのクリスマス会お誕生会等に、地域の方々が参加出来るようにパンフレットを見えやすい場所に掲示している。また、地区の餅つき大会、盆踊り大会でも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がユニット別に自己評価項目を評価し、2ヶ月をかけてカンファレンスの場で評価結果を確認する方法で自己評価を実施した。職員は評価の意義を理解し、サービス改善の尺度として評価結果を活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在8月実施の予定で、運営推進会議開催にむけての具体的準備が進んでいる。会議には利用者と家族の代表、自治会長、敬老会の代表、また地域の地区センター、地域ケアプラザの出席を予定している。運営推進会議には、ホームの課題に対するモニター役としての機能を期待している。	○	運営推進会議の開催により、地域住民のホームに対する理解を更に深めるとともに、地域における地域密着型サービス拠点としての、ホームの位置づけの強化が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3名の生活保護受給者が入居していることもあって、都筑区役所との連携には特に注意している。横浜市や都筑区の主催する各種講習会にも積極的に参加している。地域包括支援センターとの連携にも努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、家族通信「朝日のあたる家便り」で近況の出来事、生活、健康状態、行事等を報告している。利用者のグループホームでの生活がわかる様に編集し報告している。家族の来訪時には介護日誌を見てもらい、また近況を口頭で詳しく説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族で構成されるユニット毎の家族会があり定期的に会合を開催している。家族会を年2回開き率直な意見を貰っている。家族から出た意見、要望、苦情等はカンファレンス会議の場で速やかに対応している。また電話でも気軽に話ができるように配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用時資質の高い人材確保に努めている。過去4年間の定着率は90%程度と高い。職員の異動については、家族に事前に連絡し、説明している。馴染み深いスタッフが退職した時は電話や訪問等で説明し、利用者へのダメージに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、研修予定表を掲示している。研修レポートを提出し発表することで、研修成果を全職員が共有出来るようにしている。カンファレンス会議に協力医が出席し、職員に医療に関する指導を実施している。他のグループホームとの交換研修(3日間)をユニット毎に実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市内他グループホームとの職員交流、交換研修に参加している。また、H19. 6に他のグループホームの依頼に応じて、3名の研修生の指導を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては利用者に事前の宿泊体験も行っている。入居後1～3か月の期間は特に注意して、利用者が職員に馴染めるように配慮している。帰宅願望のある利用者に対しても、本人が安心できるように、職員がいつも支援者であることがわかってもらえるように配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの理念の中に「助け合い、支え合う」ことが銘記され、職員は食事や外出などの利用者とのかかわりの中で、お互いに信頼し安心できる関係になるように心掛けている。日常生活の中で利用者に調理の方法や折り紙などを教えてもらい、感謝しあう心を大切にして、お礼の言葉を忘れないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントで、本人の出来ることと出来ないことが詳細に確認され、また本人の生活歴など介護で考慮すべき事項が、バックグラウンドシートにまとめられている。利用者ごとの担当職員が決められ、本人の希望や意思を確認している。また担当職員が中心になり、カンファレンスの場でチームとしての確認と情報共有が行なわれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回カンファレンス会議を開催し、全員でよく話し合うと共に、家族の意見も聞きそれに沿って計画を立てている。カンファレンスにリハビリ、訪問医療関係者が参加し、それぞれの意見を反映させた介護計画を作成している。利用者の様子を把握できるよう、個別の連絡ノートを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度の見直しを行っている。見直し後に変化が生じた場合はその都度カンファレンスを行い介護計画を作成している。見直しシートには家族に説明の上確認印を求めている。その他介護計画は利用者の状態の変化や状況、家族・本人の要望に応じて臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域密着型のホームの多機能性を実現するために、ショートステイを試みとして実施している。またホームの認知症ケアの専門性を活かして、地域の住民を対象にした認知症教室の開催を計画している。	○	グループホームとしてのショートステイの実施や認知症介護の専門性を活かした地域住民への介護教室の開催など、地域密着型サービス基盤の一層の強化を期待したい。
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけの病院は本人や家族の要望を尊重して決めている。協力医の新横浜中央クリニックの医師がホームのケアカンファレンスに出席して、介護医療や薬に関する注意事項の指導を行なうなど、協力医とホームの関係強化が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に家族に対して「入居様が重度化した場合の介護指針」を配布し説明している。医療連携体制整備の一環として、医療機関、看護機関(ひまわり看護ステーション)との連携が図られている。またターミナルケアに関するマニュアルがあり職員に周知されている。ターミナルケアに関する研修会に出席した実績がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護マニュアルが整備され、全ての職員が個人情報保護法を理解し秘密保持の徹底が図られている。利用者の個人情報ファイルは目につかないように施錠保管している。また職員は利用者の誇りを損ねることの無いよう、常に自身がサービスを受ける立場になって言葉かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々目配りと気配りを忘れず、本人が望む過ごし方になっているかどうかを大切に、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を利用者に手伝ってもらうことで、食事の時間が楽しくなっている。味見をして貰ったり、食後の後片付けも利用者と共に行っている。食事の時間はテレビを消し、職員が利用者の間に座り、食事の内容を話題にして会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木曜日、日曜日以外は毎日、午後は自由に入浴できる。入浴拒否の利用者には、入浴剤をいれたり、好きな時間を聞いたり、浴室内に医師の指示書を貼ったり、その人に合った方法を工夫して入浴を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽セラピーや絵手紙作成の支援など、レクリエーションに力をいれている。利用者もそれぞれの得意分野をもつまでになっている。また日常生活の中で自分の役割を意識できるように配慮している。配膳、調理の準備、洗濯物干し、花壇の水遣り、カレンダーの日付変更、洗濯物配りなど本人の能力に応じて多彩である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者全員がほぼ毎日散歩に出かけている。また買物に行ったり、近くのレストランで外食する人もいる。花見や食事会などの季節行事や保養施設を利用するなど、外出の機会は多い。車椅子の利用者に対する外出など、それぞれの能力と状態に応じた配慮がうかがえる。		
よ売り					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関とフロアの鍵は通常かけた状態である。外出の意向のある利用者には職員がすばやく察知して、必ず付き添うようにしている。モニターテレビの設備があり、利用者の行動が職員が目にも入るようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練を年に2回実施している。夜勤者が1人しか居ない時を想定した避難訓練を行うなど、毎回テーマを決めて実施している。避難誘導のルートやヘルメット類、非常階段などの災害時対策の環境が整備されている。また同じビルでのデイサービスとの合同訓練を実施している。	○	ホーム単独の避難訓練は実施されているが、今後は地域住民や地域の関連施設との協力の中で、災害対策を総合的に推進することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に1回栄養士が抜き打ち的にユニットごとのカロリーや栄養状態をチェックし、日常の献立に対する指導を行なっている。献立は季節の旬の物を多く取り入れ、アレルギーなど個人の状態に配慮した内容になっている。毎日の水分摂取量は個人別のバイタルチェック表に細かく記入し、特に入浴後の水分不足等に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全体に広くゆとりとした設計である。リビングは自然の採光で明るく、ソファが置かれ、畳のフロアがあり、利用者がそれぞれの思いで寛ぐことができ、リビングに通じるベランダにはきれいな鉢植えがおかれ季節感に溢れている。洗面所、トイレも広く車椅子利用の配慮がある。浴室には床暖房の設備がある。通路やリビングの壁には貼り絵や絵手紙など利用者の作品が掲示され、レクリエーション活動の盛んなことがうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の個性に溢れている。馴染みのたんすや置物が沢山持ちこまれている。ほとんどの人はテレビを持ち、電話を設置している人もいる。また携帯電話を所持している人もいる。各ユニットの3居室には居室内にトイレが設置されていて、利用者の好みや状態に合わせて入居できるように配慮されている。		